

科目名	年度	レポート番号	クラス	学籍番号	名前
API 実習	2023	3	B	20122010	伊藤瑠晟

レポートは 3 ページ以上、5 ページ以内とします。5 ページを超えても構いません。ページ数や文字数よりも、わかりやすく書けているかどうか、点数アップの分かれ目です。改行で稼ぐ行為は減点対象です。

調査レポート名 AI 時代の到来で変わる CEO の意思決定 (<https://www.ibm.com/downloads/cas/AAYNYWE2>)

調査レポートの要約

CEO には高い不確実性と影響力を持つ意思決定が求められており、従来の経験や直感だけでは不十分である。現在、CEO を悩ませる主な課題は、財務状況よりも AI、サステナビリティ、サイバーセキュリティ、DE&I、利害関係者の管理など、複雑性の高い問題である。意思決定の過程では、CEO は明確な意図を持ち、適切なアウトプットを追求する必要がある。AI は意思決定の支援ツールとして役立ちつつあり、CEO は導入の必要性を感じているが、経営層の一部は従業員のスキル不足を懸念している。今後のリーダーシップは、変化への適応力を高め、戦略的なロードマップを策定することが重要である。

CEO の責任は重く、デジタル化とテクノロジーの進歩により、イノベーションへの圧力が高まっている。リアルタイムデータの増加は情報の有用性を高めつつ、情報過多ももたらしている。新しい領域では公的基準の不明確さが CEO の悩みとなっており、AI ツールは意思決定を簡素化・迅速化する一方で、生成 AI の誤情報のリスクも懸念されている。CEO は AI の適切な利用に関する葛藤に直面し、さまざまな情報を基に戦略的な意思決定を行っている。CEO の特徴として、財務面での優れた成果、デジタル・インフラとデータへの信頼、組織の行動を促す指標の活用、主要利害関係者との円滑なコミュニケーションが挙げられる。さらに、意思決定にはデータを重視しつつ、幅広い手法を用いることが一般的である。CEO はデータのみならず、経験や知恵も活用し、チーム・メンバーからのアイデアを尊重している。

Majid Al Futtaim Retail 社は、フランスの食料品小売り企業 Carrefour のフランチャイズを展開し、中東、アフリカ、アジアに店舗を持つ。同社は国籍の異なる顧客需要に対応するために、データ主導の意思決定を強化し、アナリティクスとデータ管理を改善することに焦点を当てた。これにより、店舗の運営見直しや商品投入が迅速化し、業務リクエストへの対応時間が改善された。CEO は、AI の導入に際して信頼できるデータの重要性を強調し、データの標準化と品質向上に注力する必要性を理解している。経営層は、人材・スキルとテクノロジーの重要性が増していることを認識し、全社的な意思決定をリードする体制の構築を必要としている。データに関する懸念や生成 AI の導入に伴う課題は、企業が直面する重要な課題であり、セキュリティや倫理を含めた適切なガバナンスの確立が求められている。

AI 活用において、優れた CEO は社内チームとの対話を通じて進捗を確認し、安全策を実施し、責任ある AI の推進を図っている。AI スキルを持つチームメンバーの確保やデジタル専門家の獲得は課題であり、エコシステムパートナーとの連携が重要とされる。CEO はさまざまな情報を結集し、意思決定に反映させるために多様な関係者の意見を取り入れている。AI の導入により、人員体制に変化が生じる中、従業員への影響や対応に関する CEO の認識にはばらつきがあり、明確なビジョンや対応策の不足が懸念される。企業は AI 導入に関連するデータや IT、ビジネスプロセスに通じた人材を揃え、明確な意思決定を行うことが必要だ。不確実性の高い時代において、CEO の最大の課題は不確実性への対処であり、これによって成長力が左右される。

CEO は生産性と収益性を重視する一方で、サステナビリティとサイバーセキュリティを今後 3 年間の最大の課題と位置づけている。約 50%の経営層が現在サステナビリティ目標にリンクした報酬を受け取っており、これは前年の 15%から大幅に増加している。サステナビリティは企業の健全性を示す指標であり、サステナビリティ戦略をデジタルトランスフォーメーションに連携させる企業は収益成長率が最大 41%高い。しかし、ESG 目標を掲げる企業の 95%が目標を達成しておらず、信頼性やデータのセキュリティ、レポートの信頼性に関する問題が指摘されている。CEO はサイバーセキュリティとデータ管理に対する責任を増大させており、安全な環境を整えるための準備が必要である。生成 AI の登場は企業の将来を左右する可能性があり、CEO には明確な計画を策定し、最適な機能を構築することが求められている。

アウトストラデ・イタリア社の CEO である Roberto Tomasi 氏は、将来の不透明さの中で CEO が直面する課題や、AI が人間の意思決定に与える影響について述べています。彼は、CEO は時に不透明な状況で決断を迫られることがあり、その際には自らの力を信じて方向転換を図る必要があると指摘しています。また、AI が作業に加わることで、CEO はチームの力を信頼し、AI を活用して意思決定を補完する必要があると述べています。CEO が新たなアプローチを採用し、AI を活用して意思決定の質を向上させるための具体的なアクションガイドを提案しています。その中で、AI の有効な活用やデータ管理の重要性、意思決定の透明性の確保、従業員の能力向上などが強調されています。さらに、エコシステムやパートナーシップの強化、セキュリティの強化、オープンなイノベーションの推進なども重要なポイントとして示されています。文章は CEO が不透明な状況に対処し、AI を活用して意思決定を補完するための具体的なアクションプランを提示しています。調査レポートによれば、米国の CEO の多くは生成 AI を肯定的に受け入れているが、実際の成果との間に乖離があることが明らかになった。CEO は AI の利点に期待している一方で、経営陣の準備不足を感じている。また、従業員や顧客からは生成 AI への慎重なアプローチが求められている。さらに、生成 AI の導入にはデータ管理やセキュリティ、バイアス排除などの課題がある。日本企業は AI 導入の遅れや日本語対応の精度差に直面している。企業は中長期的な視野で取り組み、組織やデータの重要性を認識し、AI ビジョンを明確にすることが重要だと指摘されている。

あなたの考え

この記事を読んで CEO は従業員の上に立ち、指示を出しているだけではなく時代の変化・流行によって大きな決断をしなければならない時があって自分は優柔不断なのではないかと思った。ここでは AI、サステナビリティ、サイバーセキュリティ、多様性・包摂性などを導入するかどうかということが主な議題であったが、私は導入すべきであると考えます。課題やリスクはあるが、それと引き換えに導入に成功した場合の利点が多いと感じた。CEO にとって効率と言うのはとても大切な部分の一つであり、この先に自分の会社やコミュニティを存続していきたいのであれば目先の課題、効率よりも何年後、何十年後にどうなっているのかが重要であると考えます。AI には業務の効率化を促進させるメリットがあり、サステナビリティ戦略をデジタルトランスフォーメーションに統合すれば収益成長率を高めることができます。特にサステナビリティとサイバーセキュリティは CEO の中でも注目が集まっている。この記事は主に海外の調査結果が載っているが、最後に日本についての比較があった。まず、英語と比較した日本語における精度差の影響を考える必要がある。それと日本は固定概念に囚われがちな風趣があると私は考える。日本人の性格に多いと思うのだが、現状維持をされていて新しいことに挑戦する人が少ないと感じる。そこを乗り越え、新しいことや未知の領域に足を踏み入れていく人材が今の日本で成功していくのではないかと考えた。この記事でもデジタルの活用にあたって、人員を減らすことや人材配置を変更することについて

て日本は踏み出せていないと示してある。このことから日本の CEO はまずチャレンジすることや、まだ周りがやっていない部分でのデジタルの導入を検討すべきであると私は考える。同時に日本だけに言うことではないが、教育の面で早めに AI やサステナビリティ、サイバーセキュリティなどを早めに学ぶべきであると思う。プログラミングが義務教育になるようにこれらも義務教育にいれば人材育成の時間を裂けるのではないか。そうなると学生の勉学の負担が大きくなってしまうという課題が出てしまうが、他の技術的な科目を削り、調節すれば問題ないのではないかと感じた。

私の考えでは世界的にもっとデジタルの有効活用についてもっと注目していくべきだと思う。日本は特に固定概念に囚われてしまう部分が大きく目立つので、現状維持が大切な時もあるが新しいものにチャレンジする姿勢を重要視するべきであると感じた。また、個人でやるリスクが大きいのなら政府が、国が支援をすれば国の発展につながるのではないかと考える。これからどのように最新技術と向き合っていくのか注目していきたい。

専門用語解説

- ・インテリシジェント・オートメーション: 人工知能 (AI) を使用して自己改善型のソフトウェアオートメーションを実行するプロセス
- ・ソート・リーダーシップ: ビジネス業界・社会事業などにおいて、その分野をけん引する革新的な活動を行うこと
- ・ESG データ: 環境、社会、ガバナンスの指標を追跡するためのデータ
- ・データ・マイニング: 大量のデータを解析することで価値のある知見を得る技術
- ・ベンチマーキング: 同じプロセスに関する優良・最高の事例(ベストプラクティス)を分析し、業務効率向上へとつなげる経営手法
- ・フランチャイジー: フランチャイズシステムを使ってビジネスを行う個人、または法人
- ・サステナビリティ: 環境や経済等に配慮した活動を行うことで、社会全体を長期的に持続させていこうという考え方
- ・サイロ化: 業務プロセスやシステムなどが他の部門や事業部などと連携されていない状態
- ・データ・マイニング: 鉱山からよりよい鉱石を掘り当てるように、大量のデータから統計学やパターン認識、AIなどを活用しデータ解析を行って、役に立つ知見や考え方を探り当てること
- ・ソリューション: 解決や解答
- ・デジタル・ダッシュボード: 企業のビジネスの状態を視覚化し確認できるようにする経営者向けのビジネス管理ツールの一種
- ・ベネフィット: 利益」「報酬」、動詞で「役に立つ」「恩恵」「利益を得る」
- ・イノベーション: 革新」や「刷新」、「新機軸」
- ・パブリック・リーダー: 一般に人気のあるリーダー的存在の人

